

## 平成 23 年度第 3 回北海道立図書館協議会会議概要

日 時：平成 24 年 3 月 16 日（金）

会 場：北海道立図書館 会議室

出席者：協議会委員 7 名、道立図書館職員 12 名

傍聴者：なし

### 議事等

#### 1 報告

- (1) 北海道立図書館条例の改正について
- (2) 平成 24 年度予算要求について
- (3) 政策評価二次評価意見について

#### 2 議題

- (1) 平成 24 年度北海道立図書館運営計画（案）について
- (2) 新「北海道立図書館事業推進計画」（素案）について

#### 3 その他

会議概要（○～委員の発言 ・～道立図書館職員の発言）

#### 1 報告

- (1) 北海道立図書館条例の改正について

高久総務企画部長説明

（資料：「北海道立図書館協議会条例の一部を改正する条例案の概要」ほか）

（質疑なし）

- (2) 平成 24 年度予算要求について

高久総務企画部長説明

（資料：「平成 24 年度北海道立図書館運営計画 3 予算の概要」）

- 図書館資料整備費について今年度比 700 万円減となっているが、次年度の計画等に影響はないか。

- ・ 運営計画の「5 図書館資料の整備計画」のとおり、相当数の資料を購入できない点で、かなり影響がある。図書資料費が全国の都道府県で 42 番目という状況の中で、住民生活に光をそそぐ交付金で多くの資料を購入できたのだが、平成 25 年度では従前の予算額を確保していきたい。

- 図書館維持運営費（維持費）について、第 2 回協議会の資料と比べ今回 200 万円ほど増額となった理由は何か。

- ・ 臨時職員 1 人分の賃金で、10 月要求時点で 2 人だったのが 3 人に増えたことによる。なお、平成 23 年度は 3 人雇用している。

### (3) 政策評価二次評価意見について

高久総務企画部長説明

(資料：「北海道立図書館の事務事業評価の検討について」)

- 「指定管理者の導入の適否についても改めて検討すること。」とあるけれども、検討しないという先程の説明だったと思うが、それでよいか確認したい。
- ・ 指定管理者制度の導入については、政策調整会議で決定していることなので、道教委としては検討しないという立場である。ただ、民間開放領域の拡大については引き続き議論していく。

## 2 議題

### (1) 平成 24 年度北海道立図書館運営計画（案）について

金山利用サービス部長説明

(資料：平成 24 年度北海道立図書館運営計画（案）ほか)

- 「市町村活動支援事業の推進」の「子ども読書活動支援」の中に「学校図書館サポートボックス」(3p)を新規事業として計画している。小学校の朝読、昼読を支援してくれることは非常にうれしいが、どのくらいの資料を予定しているのか。
- ・ 教科に結びつく本を中心に、予算等の関係で学校では買い揃えられない本を、小学校 1・2 年生向け、3・4 年生向け、5・6 年生向けにそれぞれ約 80 冊をセット用意する。半年間程度、市町村に貸し出し、貸出した本は学校図書館や学級文庫に入れるなど市町村の裁量に任せ、希望する市町村に回していこうと考えている。
- 計画として何校くらいを予定しているか。
- ・ 理科読セットと朝読セットがあって、朝読は 6 市町村、全部で 22 市町村を考えている。
- いつ頃、各市町村に送る予定か。
- ・ 5・6 月頃を予定している。
- 送る市町村は申込み順か、それとも道立で選考するのか。
- ・ 両方合わせた形になると思う。資料が潤沢にあるところや少ないところ、初めて声を上げたところなど市町村によって異なるので、調整したいと思っている。
- 「ほっかいどう地域の課題解決サポート事業の推進」の中に「道政サポートサービスの実施」(7p)とあるが、道職員だけで市町村職員は含まれないのか。
- ・ 道政に関して資料・情報を提供することによって、道政課題の解決について側面的に寄与していくというのが道政サポートの趣旨である。市町村の課題についても道政サポートとは別に当然答えていく。
- 市町村職員の政策立案・地域課題等については、サポートするという記述がどこにもないが。
- ・ 特に記述していないが、市町村の課題で地元の図書館・図書室で解決できないことについて資料・情報を提供するのは当然の仕事である。

- 「ほっかいどう地域の課題解決…」とあるので、同じ組織に対するサポートというのが、北海道地域の課題解決サポートと直接的に結びつかない印象がある。
- 道政サポートについて、具体的にどのように進めるのか。
  - ・ 法律・医療など役立つ資料・データベースがあるので、道の機関が抱えている課題について、必要な資料・情報を提供する。これまで十分PRできていたのか問題はあるが、引き続き庁内LANを使って情報発信をしていきたい。
- 庁内LANの具体的な広報手段はどんな形があるのか。
  - ・ メールでの発信や掲示板の利用である。
- 道政サポートの利用実績はどのようになっているのか。
  - ・ 平成22年度の統計はとっていないが、道政サポートによる貸出は平成21年度実績13件59冊、レファレンスでは平成21年度41件、平成20年度94件と年によってまちまちである。

## (2) 新「北海道立図書館事業推進計画」(素案)について

鈴木北方資料室長説明

(資料：新「北海道立図書館事業推進計画」(素案)ほか)

- 今まで事業推進計画をたててきたことはあるか。
  - ・ 今、推進計画1期目の最中だが、次期は生涯学習課も一緒に作成して、体裁もかなり変わっている。
- 「施策目標1～市町村支援～」の「事業の内容」の「協力サービスの推進」の中に「ILLシステムの利便性の向上に努めます。」(9p)とあるが、ILLの用語の説明があった方がよいのではないか。
  - ・ 今後、用語集等を作成し、説明する予定である。
- 「施策目標2～課題解決型サービス～」の「施策の概要」の中で、「情報の効果的な収集・整理・加工・提供・発信」(10p)とあるが、一般資料では「保存」の用語がなく「加工」となっている。一般資料について保存の考え方はどうなっているのか。また、「保存」を入れなくてよいのか。
  - ・ ここでは、課題解決サービスについてのことで、「加工」というのはデータベースに関することを指している。「保存」については「施策目標7～資料整備～」の「施策の概要」の中で「保存図書館としての役割を果たします。」(18p)としている。
- 「施策目標2～課題解決型サービス～」の「事業の内容」に「レファレンス専用カウンター…の設置を検討します。」(11p)とあるが、これは平成29年度までに実施が可能であるのか。
  - ・ 職員数や施設の問題等があるので、検討するという段階である。

- 「施策目標 3～道民向けサービス～」の「事業の内容」の「インターネット予約貸出サービスの充実」(12p)について、この事業が市町村図書館の利用の増加にどれくらい役立っているのか分析・統計したものはあるのか。このサービスを充実させたいのであれば、受取館になった市町村図書館の来館者数が増えたとか、状況分析をしてメリットを示さないと伸びないと思う。
  - ・ きちんと分析したものはないが、開始から 5、6 年くらい経ち、数も増えているので、検証する。
- インターネット予約サービスは、着実に伸びているという状況か。
  - ・ 増えてはいる。受取館数も利用数も増えているが、飛躍的に伸びているわけではない。
- 計画を立てる上で、今まで行われてきたことの結果をベースにした方がいいのではないか。市町村も検討するときの材料がないと理解を深めることができないと思う。
- 各自治体の事情をどう汲み上げていくのかということは、考慮しなければならないと思う。
  - ・ この事業推進計画について補足すると、全く新しいことを盛り込んだのではなく、現在の推進計画を引き続きやっていくという継続性はある。
  
- 「施策目標 3 道民向けサービス」の「事業の内容」の「ボランティアとの協働」(12p)について、どのくらい期待できるのか。
  - ・ 今年度の登録者は 62 人で、年齢層は 5、60 代が多い。生涯学習の自己実現の目的でボランティアを行っている人が多いと思う。希望が多いのが返却図書の本架の配架で、読書週間のときにはボランティアが選んだ資料展示もしている。
  - ・ 「施策目標 5～北方資料～」の「事業の内容」の「北方資料サポーターとの協働」(16p)もボランティア的な要素がある。
- ボランティアは少しずつ増えているのか。
  - ・ 登録者のうち実際活動しているのは 50 人前後である。うち 15 人が郷土資料関係で、近年は落ち着いている。
- ボランティアは全くの無償なのか。
  - ・ 交通費・弁当代も出ない。毎年、募集しているが、継続登録者が 40～50 人程度いる。
- ボランティアの募集にあたって新聞の本の欄を利用できないか。
  - ・ 以前、新聞紙上で募集をかけ、100 人を超える応募があったので、現在では道立図書館のホームページと来館者用の掲示板での周知に止めている。
  
- ・ この事業推進計画は素案として今回示したが、この後のスケジュールとして、原案、パブリックコメントを経て案を作成し、平成 24 年度末までに計画を固める。常にご意見を受け付けるつもりなので、ご意見があればその都度ご連絡願いたい。
 

ただ、この推進計画は平成 25 年度から 29 年度の推進計画で、上位計画である「北海道教育推進計画」や「子どもの読書活動推進計画」も同じように平成 25 年度から次期計画となる。その上位計画と図書館の計画の整合性を保つため、上位計画の方向性等が固まる中で、ある程度この計画を修正することになると思うので、ご理解いただきたい。

### 3 その他

- 広報について、各図書館のホームページを比較検証すると、web サイトを通じた情報発信が効果的であると思っている。道立図書館のホームページは非常に盛り沢山の内容になったが、これからはあふれるほどの情報発信をどうアクセスすると効果的なのかということを検討して、サイトの中に入るだけでもいろんな情報に出会えるというようにしてほしい。

(情報提供)

(1) 第 54 回北海道図書館大会について

金山利用サービス部長説明

(資料：第 54 回（平成 24 年度）北海道図書館大会について)

(2) 「北方資料ニュース」について

鈴木北方室長説明

(資料：「北方資料室ニュース」)

(3) その他情報提供資料

歴史的音源（国立国会図書館）の配信について

『あけぼのつうしん』 No.39・40